

## Ⅱ 植生概況 Übersicht über die Vegetation

### 1. 下北半島 Shimokita-Halbinsel

気候的にほぼ日本海岸気候の影響下にある下北半島北部にみられる植物および自然植生の大部分は海岸低地から山地にかけていわゆる日本海要素の植物からなる夏緑広葉樹林帯；ブナクラス域に属している。

山地の大部分を占めている自然植生はチャボガヤ、ハイイヌガヤ、ヒメアオキ、ヒメモチなど日本海要素の植物を伴ったチシマザサープナ群団に属するヒメアオキープナ群集、マルバマンサクープナ群集である。また青森県の下北半島および津軽半島に集中的に分布するヒノキアスナロ（ヒバ）は、半島北部山地に広面積に生育し、ブナとの混生林あるいは純林；ヒノキアスナロ群集を形成している。

山地溪畔には、林床にヤグルマソウ、ミヤマベニシダを伴ったジュウモンジンダーサワグルミ群集が生育している。

山間谷地や低地の過湿地はヤチダモーサワグルミ群落やハンノキーヤチダモ群集など湿生林が生育している。河川ぞいにはシロヤナギ、オノエヤナギを主としたヤナギ河辺林がみられる。



**Fig. 6.** 大間平湿原の景観，ムジナスゲ群集が優占している（大間町大間平，海拔9 m）。  
Das *Caricetum occultantis* wächst üpping im Niedermoor von Ohmadaira (Ohma-machi, 9 m ü. NN).

沿岸部の海岸台地には、海岸前線にヤマカモジグサーカシワ群集、エゾイタヤーシナノキ群集などの海岸風衝林が発達する。風背地や土壌の湿性な谷部にはタマブキーケヤキ群集、ホツツジーミズナラ群集、クルマバソウーミズナラ群落が見られる。

海岸には草本群落を中心とした各種海岸植生が発達している。安山岩や凝灰岩などの溶岩の突出した岩石海岸にはミヤマビャクシン群落、ハマゼリ群集、ハマオトコヨモギーコハマギク群集、などが生育している、波浪の強い太平洋側に多くみられる礫海岸にはハマナス群落、ハマハコベ群落が発達している。砂丘海岸にはハマニククーコウボウムギ群集、スナビキソウーハマニク群集などが分布している。

岩石海岸など広く潮溜りなどのみられるところでは、タチドジョウツナギ群集、ドロイ群集などの塩生植生が見られる。

大間平など海岸後背の低湿地には、ムジナスゲ群集、ヒライーカモノハシ群集カサスゲ群集、ウキヤガラーマコモ群集などの低湿地草本植生が見られる。湿原中の池沼にはジュンサイーヒツジグサ群集などの浮葉植物群落が発達している。

下北山地の縫道石山（626m）など石灰岩の露出した山頂部や釜臥山（878m）など風衝の強い山頂部にはマルバシモツケーコメツツジ群落などの風衝低木群落が発達している。また釜臥山の



Fig. 7. 下北半島の中央山地にはヒノキアスナロ群集、ヒメアオキブナ群集などの自然植生が広く発達している（川内町円山、海拔450m）。

Das *Thujopsietum hondae*, das *Aucubo-Fagetum crenatae* und andere natürliche Vegetationseinheiten wachsen im montanen Gebiet der Shimokita-Halbinsel (Berg Maruyama, Kawauchi-machi, 450m ü. NN).

北側にある荒川岳（約740m）山頂部に小面積であるが コメツツジ群落などの 風衝矮生低木群落  
がみられる。

## 2. 亀田半島 Kameda-Halbinsel

亀田半島南部は、植生的にはブナ、ミズナラを中心とした夏緑広葉樹林帯ブナクラス域に属し  
ている。本地域の最高峰である気無山（415m）の山頂付近では、本州の亜高山帯に分布してい  
るダケカンバの優占する林分がみられるが、種組成的には、ブナクラス域に含まれる森林群落で  
ある。

本地域の山地の大部分は、渡島半島に広く生育するチシマザサ-ブナ群集を主とした自然植生  
におおわれると考えられる。急峻な海岸斜面や風衝的な沿岸台地、丘陵斜面ではサワンバーミ  
ズナラ群集、エゾノヨロイグサ-カシワ群集などの自然植生が生育する。

海岸線の大部分は岩礁海岸となっており、そこには下北半島部と同様に、ハマオトコヨモギ-  
コハマギク群集、エゾオグルマ群落などが生育する。砂嘴の発達する尻岸内川河口付近の中浜で  
は、ハマニンニク-コウボウムギ群集の生育する砂丘海岸がみられる。

汐泊川の河辺には、ツルヨシ群集やオノエヤナギ群落などの河辺植生が発達する。汐泊川流域  
の沖積低地は、土壌の厚い適湿地でハルニレ群集が、また地下水位の高い過湿地ではハンノキ-



**Fig. 8.** 気無山の山頂付近では高木層にダケカンバの優占したチシマザサ-ブナ  
群集がみられる（戸井町気無山、海拔400m付近）。  
Das Saso-Fagetum crenatae mit dominierender *Betula ermanii*  
auf dem Berg Kenashi (Toi-cho, 400m ü. NN).

ヤチダモ群集，ヨシ群落などが生育する。

小地域ではあったが北海道亀田半島部には，本州北端の下北半島の植物および植生と異なる点が多くみられた。すなわち，北海道亀田半島南部の山地には下北半島にみられない，チシマザサーブナ群集，サワシバーミズナラ群集，エゾノヨロイグサーカシワ群集が分布している。一方亀田半島では，下北半島のブナクラス域を特徴づけるヒノキアスナロ群集は確認されなかった。